

2022年3月17日

株式会社アイキャスト 第32回番組審議委員会 議事録

- 日時： 2022年3月17日(木) 16:00～17:00
- 場所： オンライン会議で実施
- 出席者： 番組審議委員 板東 浩二 様 (委員長)
池田 昌史 様
今別府 亮 様
植田 実 様
トム ペリー 様
中尾 信一 様

アイキャスト 永田 勝美 (代表取締役社長)
沼尻 孝 (取締役副社長)
小林 智 (取締役)
宮里 系一郎 (取締役)
荒木 孝広 (取締役経営企画本部長)
上島 史朗 (サービス本部長)
高橋 佑平 (サービス本部 編成部長)
福岡 貴博 (経営企画本部 事業戦略部 課長)
兼子 賢太 (経営企画本部 事業戦略部 主任)

■議事内容

1. 番組審議

(1) 『彼女のウラ世界』

- ① 男女それぞれの視点で描かれているのが面白かった。
また、フジテレビ TWO とひかり TV チャンネルで交互に放送したのが斬新だった。
東京カレンダーで連載されている小説の世界観も表されていて、すごく面白かった。
改善点としては、本作品がもっと話題になればよかったと思う。
- ② 「TOSHIRO SIDE」を見ただけではわからないことが多くモヤモヤしていたものが、
「AKIKO SIDE」を見たことで納得できた。この手法はすごく面白いと感じた。
刑事ドラマでの警察視点と犯人視点など、色々広げられるのではないか。
- ③ 男性としては「彼女」が本当に何を考えているのかわからない。「AKIKO SIDE」が
これからどうなっていくのか、を考えるのが面白い。
脚本として、一部の映像を男女共通で使ったり、両方の観点を描くことは面白い作り方だと思った。
- ④ 今回のようなチェンビューイングの場合と、ひかりTV単独で放送した場合で、
視聴者の反応は異なっていたのか、ということに興味をもった。
- ⑤ 1つのチャンネルで全てのコンテンツを視聴できるわけではないということは、デメリットになる部分もあるように思う。
実験的な試みだったと思うので、視聴者の声はどうだったのか、興味がある。
視聴者に継続的に視聴してもらうためには、ドラマは重要なコンテンツ。
連作でやっているとコストもかかると思うが、放送局と作品をシェアすることで、
視聴者に対する満足を提供する方法という意味では面白い。

(2) 『フェニックスバトル』

- ①大橋ボクシングジムが開催するイベントを支援しているというのがいい取り組みだ
と思う。
このような取り組みによって、若い選手たちが出てくる機会が増え、モチベーションも湧くと思うので継続してほしい。
NTT 人間情報研究所の技術にも注目しており、もっとボクシングの魅力をデータ化できると思う。
- ②出場選手の試合直前の紹介映像（通称 「煽り VTR」）に含まれていた選手の裏側
の話が一番興味があった。
今後もボクシングを支援していくのであれば、これから注目選手のバックストーリーをドキュメンタリーのような形で制作するのがいいのではないか。
ボクシングファンの継続的な視聴につながるだけでなく、ボクシングに興味のない層でも、ドキュメンタリーとして視聴することができる。
- ③T シャツなどオリジナルグッズを製作し販売することによって、選手への金銭的な還元が増え、選手がボクシングに専念できるような環境をひかり TV が実現したら、ボクシングファンが増え、子どもたちもボクシングの世界に入ってってくれるのではないかと思う。
選手の経済的な面も守らなければいけないと思う。
- ④出場選手の煽り VTR が格好よかった。ボクシングや格闘技ファンは煽り VTR を楽しみにしているので、その部分に力をいれているのは大事だと思った。
PPV を提供したことも、今後のボクシングにとってすごく良いことだと思う。
ボクシングファンを囲い込むようなファンクラブを作り、限定の NFT を発行してビジネスを展開することもおもしろいのではないか。
- ⑤選手の背景情報があることで、試合の見え方が変わってくる。
裏にあるドラマを感じながら試合を観戦できるので、感情移入ができ、ボクシングファンでなくても見入ってしまうようなコンテンツになっている。ドキュメンタリーのような観点で、そこから番組を作る二次活用も可能だと思う。